

鶴岡市・つるしんアリーナ小真木原で「やまがたフラワーフェスティバル2025 花き品評会審査会」が開催され、県内産花き260点が出品されました。

審査の結果、最上町・新田地区の奥山光博さんが生産したりんどう「初冠雪2」が、見事 山形県知事賞を受賞し、1月8日鶴岡市内にて表彰されました。町内では、花き生産部会を中心に、気候に適した作物であり町花でもある「りんどう」の生産に力を入れており、今回の受賞はその取り組みが高く評価されたものとなりました。この度の受賞、誠におめでとうございます。



## 企業版ふるさと納税で実現 子どもの遊び場づくり



企業型ふるさと納税を活用し、子どもたちが休日を楽しく、安心して過ごせる遊び場「もがみんパーク」を開設する取り組みが始まりました。その第一歩として、12月25日と26日の2日間、中央公民館大ホールを会場にプレオープンを実施しました。

会場には、大型遊具やBブロック、さまざまなボードゲームを用意し、大ホールを7つのコーナーに分けて遊びの空間を演出。体を思いきり動かして遊べるコーナーから、友だちと一緒にでなければ楽しめないカードゲームまで、年齢に関係なく多彩な遊びを体験できる場となりました。

2日間で訪れた子どもたちは、小学生34名、幼児34名の計68名。初めて出会う遊びに夢中になる姿や、子ども同士の交流が自然に生まれる様子が見られ、来年度からの本格開催を具体的に思い描くことができました。

参加した子どもたちは、「とても楽しかった」「初めて遊んだゲームがあった」「また遊びに来たい」といったうれしい声も寄せられました。子どもたちの笑顔と元気に背中を押され、最上町らしい「居場所」づくりへの大きな一歩となった2日間でした。

※今後の開催については、随時お知らせさせていただきます。

## 大場利秋さんが叙勲旭日双光章を受章



令和7年秋の叙勲受章者が昨年11月3日付で発表され、当町では、株式会社大場組会長の大場利秋さんが「旭日双光章」を受章されました。11月21日には皇居で行われた授与式において、勲章が贈呈されました。

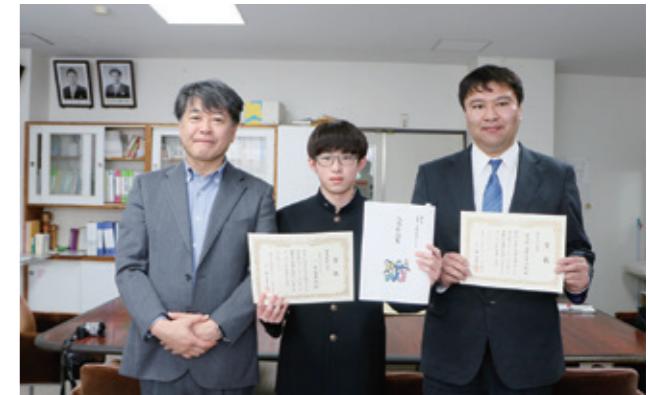
大場さんは、総合建設業を軸に有望分野への多角的な経営を展開。全国で当時唯一、アスベストの無害化を可能にした産業廃棄物処理施設を建設したほか、高齢化を見据えた福祉事業、農業生産法人の経営、観光業、内水面漁業など、幅広い分野で事業を展開してきました。また、平成29年から8年間にわたり県法人会連合会副会長を務め、申告納税制度の普及に尽力。その功績が認められ、財務大臣納税表彰も受けています。さらに、町の教育振興や若者のがん検診受診促進のため、継続的な寄附を行ってきました。

大場さんは叙勲受章という大きな名誉に対し、「周囲の協力があつての受章」と控えめに微笑み、これからも地域貢献にまい進したいと話してくれました。この度の受賞、誠におめでとうございます。

## 全 国子ども防災コンクールにて 最上中学校から生徒と教員の2名が受賞

全国子ども防災作文コンクールにおいて、最上中学校2年の中島尊帆さんが審査員特別賞を受賞しました。作品では、町で災害が起きた場合の3日間の過ごし方を綴り、自分がその立場ならどう行動するかを、分かりやすい言葉で表現した点が高く評価されました。

また、同コンクールでは、優秀学校賞として最上中学校2学年教員の石岡庄謙さんも表彰されました。生徒の防災意識を育む継続的な指導の成果が認められたもので、地域全体で防災を考える契機となる受賞となりました。この度の受賞、誠におめでとうございます。



写真中央：中島尊帆さん、写真右：石岡庄謙さん

## 人 権作文コンテスト山形県大会において 「山形新聞社賞」を受賞

第44回全国中学生人権作文コンテスト山形県大会において、最上中学校3年の伊豆倉杏珠さんが「山形新聞社賞」を受賞しました。県内83校から約2,600編の応募が寄せられる中、作品「二人が教えてくれたこと」が高く評価されました。身近な人との関わりから思いやりの大切さや、一人ひとりの違いを認め合うことの尊さを丁寧に描いた内容で、人権について改めて考え、どう行動すべきかを気付かせてくれる作品です。この度の受賞、誠におめでとうございます。



写真右：最上町獣友会 会長 伊藤和久さん

## 町 獣友会に新庄警察署長より感謝状贈呈

12月24日、最上町獣友会が新庄警察署長から感謝状を贈呈されました。町獣友会は、作年、クマの大量出没により人身被害が懸念される中、罠の設置や駆除活動に取り組み、被害の未然防止に大きく貢献しました。

また、10月に向町中心地の住宅にクマが侵入した際には、緊急要請に対し迅速に対応し、危険な事態を解決しました。今後も有害鳥獣対策を通じて、町民の安全確保と被害防止に尽力していただきたいです。



写真中央：最上町消防団長 二戸孝芳さん

## 消 防団が新年の無災害を祈願

1月8日、最上町消防団無災害祈願式が行われました。二戸団長をはじめ消防団の上級幹部と最上広域消防本部東支署長など総勢40名程が参加し、今年一年の無災害を祈願しました。式では二戸団長から、団員が減少する中ではあるが、消防団再編を進めつつ、引き続き迅速かつ的確な消防活動に当たっていただきたいとの話があり、最後に消防団の一致団結を呼びかけました。